

畜産研修施設の展開による後継者の育成

飛騨農協(岐阜県)

取組の背景

- 全国でも屈指のブランド和牛「飛騨牛」の生産地である飛騨地域でも畜産農家の高齢化・後継者不足は課題であり、離農等により繁殖農家が減少、飛騨牛の素牛となる繁殖基盤が縮小。
- 全国的な素牛不足と価格の高騰に対応した、地域での供給体制の整備が必要。
- 畜産業へ就農を希望する学生が増えつつある中、就農につなげる仕組みづくりが必要。

取組の概要

- 飛騨農協は、飛騨市、全農と共に投資し、飛騨牛の肥育素牛となる和牛繁殖の生産基盤強化や担い手育成に向けた研修施設「株式会社ひだキャトルステーション」を平成30年11月に設立した。
- 飛騨市内の廃業した酪農牛舎を和牛繁殖用に改修。約4,400坪の敷地に繁殖牛舎、子牛育成舎、分娩・哺育舎及びたい肥舎が設置され、最大で100頭の繁殖雌牛を飼育することができる。
- 研修は年2名を上限に2年間。施設内研修に加え、飛騨市内の繁殖農家での実地研修も実施。実践的な飼育管理技術の習得、関係団体技術員の指導による和牛繁殖経営に対する知識の習得が可能。
- 牛舎には最新の分娩監視システムや監視カメラを導入し、ICT技術による和牛繁殖経営の省力化と事故率低減に向けた取組を体験可能。
- 牛糞は、敷地内の堆肥舎で堆肥化し、稲発酵粗飼料(WCS)生産のための肥料とし契約農場の圃場に還元。耕畜連携による堆肥流通促進と飼料低コスト化の実証展示も行う。
- 飛騨市は、和牛の繁殖に必要な資格取得を技術面・資金面で支援するとともに、同市内に移住・就農する際には、住居費補助等の支援を行っている。
- 研修中および終了後の就農に対しては、飛騨地域新規就農者育成協議会による組織的な支援体制が構築されている。



成果

	平成31年度	令和2年度
研修生数	1人	1人

- 職員2名、パート1名と研修生で、雌牛80頭を飼育。
- 平成31年4月に第1期生の研修生を迎え入れ人材育成をスタート。人工授精師資格を取得後、1年間で研修を終え管内畜産法人へ就農した。また、第1期生の育成した雌牛は岐阜県畜産共進会において優等賞を獲得した。
- 堆肥は圃場に散布し、契約法人よりWCSロール250個を受入、経産牛への給餌を開始した。
- 月間約6頭が出生、令和3年度より年間約70頭の飛騨牛の素牛供給が可能となる。